



第5章
ニーズ調査等からみた主要課題

1. 地域における子育ての支援

(1) 子育ての不安や悩みや地域の子育て環境

- 子育て支援のあり方としては、経済的な支援と「ワーク・ライフ・バランス」の達成が最大の関心事となっています。
- 子育てにおける不安・悩みとしては、就学前では「食事や栄養について」が、小学生では「子どもの教育に関して」がそれぞれもっとも高くなっています。
- 悩みや不安への相談相手としては、親族に頼る傾向が強く、公的機関への依存は少なく、今後、子育てが楽しいと考える保護者がもっと増えるためには、親族などに代わって、身近なところで、悩みや不安に答えられる公的な支援のあり方が求められます。
- 情報の入手方法としては、仲間同士の情報がもっとも高い評価を受けているのに対し、公的な相談相手や場所の情報源としての利活用は低く、それぞれのニーズに対応したPR活動の推進などを検討する必要があります。
- 町からの情報提供方法としては、ホームページや子育て便利帳があり、内容の充実を図っていますが、保護者の利用手段としての評価は低くなっています。
- 隣近所との付き合いは希薄化しているものの、一方で隣近所を含む地域への期待は「危険な目にあいそうなときの保護等」が圧倒的に高く、地域での見守りや気づきへの期待が大きくなっています。

(2) 保育サービスや子育て支援の基盤整備の状況

- アンケート調査でみると、今後利用したい保育サービスでは「病児・病後児保育」が最も高く、病気時への対応が強く求められています。
- 子育て支援の核となる「地域子育て支援センター」については、整備を含めた検討が必要です。
- 放課後児童クラブについては、これまで利用者数は増加傾向にあるものの、今後の利用意向では4割程度と低く、利用希望者低下の原因を探る必要があります。
- 認知率、利用率、利用意向率の上位は「母親学級、両親学級、育児学級」「保健センターの情報・相談サービス」「保育所や幼稚園の園庭等の開放」がいずれも占めており、満足度も相対的に高いことから、これら事業の充実、強化が求められます。

(3) 子どもの遊び場環境

- 子どもの遊び場については、天気に影響されることなく、町内どこからでも利用でき安全で遊具の揃った遊び空間への要望が高くなっています。

2. 教育環境等の状況

- アンケート結果をみると、小学生の約8割は、週に数日以上家の手伝いをしており、親との会話では「友だちのこと」「学校や塾、習い事の出来事」「テレビの番組」が上位を占めています。
- 本町の教育施設は幼稚園5、小学校4、中学校3となっており、児童・生徒数はいずれも微減傾向となっています。
- 青少年育成事業等各種の社会活動は多岐にわたっており、それぞれの分野で充実した事業メニューとなっているとともに、ユニークな取り組みもあり、今後の青少年育成事業の展開上、重要な役割を担うものとして位置づけられます。

3. 安心・安全環境の状況

- 全体的には、子どもづれでも不自由しない場所、バリアフリー化への対応や交通安全・防犯への対応が求められています。
- 小学生を対象にした交通安全教室や子ども110番の家事業等を通して、子どもの安心・安全への取り組みの充実を図る必要があります。

4. 要保護児童への対応状況

- 「不登校対策事業」等不登校児童生徒への支援事業の継続が必要となっています。

5. 職場生活と家庭生活との両立状況等

- 母親の8割近くが何らかの形で就労していますが、就学前では「就労していない」も高くなっています。
- 今後の就労希望をみると、期間は別にすると、就学前、小学生とも8割以上の保護者が就労を希望しています。
- 就労していない理由としては、「働きながら子育てできる適当な仕事がない」がもっとも高く、保育サービスの一層の充実、強化とともに「ワーク・ライフ・バランス」を実現させるための環境が整っていないことを示しています。

